花のまちづくり 優秀事例発表会
2017

平成 29年 10月 25日（水）

日比谷図書文化館

主催：公益財団法人 日本花の会

プログラム

12:00　開場（受付開始）

12:50　開会あいさつ

13:00　第27回　全国花のまちづくりコンクール審査結果報告

13:15　花のまちづくり優秀事例発表

個人部門　山崎 久夫（富山県朝日町）
団体部門　新地町立駒ケ嶺小学校（福島県新地町）
団体部門　すみよいカルチャータウンをつくる
　　コミュニティガーデンふるる（兵庫県三田市）
市町村部門　藤枝市（静岡県藤枝市）

15:15　休　憩

15:30　講　演

花のまちづくりスキルアップ
「誰でもできる楽しい たねダンゴ、花と笑顔がいっぱいのまちづくり」
講師　小杉 波留夫 氏

16:40　総　括　コンクール審査委員長 輿水 肇

16:50　全国花のまちづくり中之条大会 開催案内

17:00　閉　会

表紙の写真（左から）
・パンジー
・チューリップ
・モッコウバラ
・フジ

第27回 全国花のまちづくりコンクール 審査結果報告

応募者数

応募総数	1,851
市町村部門…	4
団体部門…	1,634
個人部門…	147
企業部門…	66

受賞者一覧

花のまちづくり大賞　農林水産大臣賞

団体部門　新地町立駒ケ嶺小学校（福島県新地町）
個人部門　山崎 久夫（富山県朝日町）

花のまちづくり大賞　国土交通大臣賞

市町村部門　藤枝市（静岡県藤枝市）
団体部門　すみよいカルチャータウンをつくる会 コミュニティガーデンふるる（兵庫県三田市）

花のまちづくり優秀賞　花のまちづくりコンクール 推進協議会長賞

団体部門　浦戸諸島「海と花の物語」（宮城県塩竈市）
団体部門　NPO 法人 大田・花とみどりのまちづくり（東京都大田区）
団体部門　長岡市立山本中学校（新潟県長岡市）
団体部門　社会福祉法人 浄英会 長生保育園（新潟県長岡市）
団体部門　越前市南地区自治振興会（福井県越前市）
団体部門　神原町花の会（花美原会）（静岡県浜松市）
団体部門　草津市ガーデニングサークル　“グラッシー”（滋賀県草津市）
個人部門　相場 真江・相場 毅正（群馬県太田市）

花のまちづくり奨励賞　花のまちづくりコンクール 審査委員会賞

団体部門　黄金自治会（宮城県涌谷町）
団体部門　十文字環境美化を考える会（秋田県横手市）
団体部門　東海村立白方小学校（茨城県東海村）
団体部門　習志野台団地自治会　花愛好会（千葉県船橋市）
団体部門　中丸子南緑道緑を守る会（神奈川県川崎市）
団体部門　牧之原市花の会（静岡県牧之原市）
団体部門　島本町緑と花いっぱいの会（大阪府島本町）
団体部門　東古瀬こども園（兵庫県加東市）
団体部門　島原市立第三中学校（長崎県島原市）
個人部門　市山 由美子（富山県砺波市）
企業部門　オッペン化粧品株式会社（大阪府吹田市）
企業部門　パナソニック洲本園芸部（兵庫県洲本市）

花のまちづくり 入選

市町村部門

東成瀬村（秋田県）

団体部門

会津美里町立本郷小学校（福島県）
笠間市立友部中学校（茨城県）
常陸太田市立誉田小学校（茨城県）
東新井団地花クラブ（埼玉県）
長岡市立桂小学校（新潟県）
富山市立四方小学校（富山県）
掛川市立千浜小学校（静岡県）
味美町子ども会（愛知県）
いきいき刈谷友の会　ガーデニング部会（愛知県）
がまごおり花フル会（愛知県）
美里ヶ丘　花サークル（三重県）
泉大津緑化ボランティア協議会（大阪府）
環境とフラワーロード（大阪府）
城東区はなびとコスモスタッフの会の
　花と緑のまちづくり活動（大阪府）
NPO 法人　あわじ緑花協会（兵庫県）
フラワーリーダー 8 期生（兵庫県）
芦屋山手 Green ねっと（兵庫県）
NPO 法人 にじのかけ橋（兵庫県）
吉田病院 平和会健康友の会 グリーンボランティア
　あをによし奈良 Garden Link（奈良県）
美和高齢者クラブ連合会　寿会（茨城県）
城里町立石塚小学校（茨城県）
東国花の寺　常楽寺（群馬県）
道保川・水と魚に親しむ会（神奈川県）
社会福祉法人 浦山学園福祉会 小杉西部保育園（富山県）
まちづくり宮ノ下地区委員会（福井県）
裾野市パノラマロードを花でいっぱいにする会（静岡県）
関田東高砂会（愛知県）
福地南部小学校コミュニティ推進協議会（愛知県）
西髙倉老人すこやかクラブ（三重県）
桜花台花と緑の会（三重県）
すみれ・花フレンズ（大阪府）
希望の開拓菊サロン（大阪府）
城北川花いっぱいプロジェクト（大阪府）
交野市花と緑の会　いぶき（大阪府）
ガーデン苅尾（兵庫県）
鶉野中町花家族の会（兵庫県）
名塩さくら台景観緑化クラブ（兵庫県）
西宮フルーツ・フラワー研究会（兵庫県）

個人部門

寺﨑 啓乃（富山県）
太田 よしの（兵庫県）
諏訪 早苗（兵庫県）
奥川 きみ子（兵庫県）
小栗 民子（高知県）
藤田 幸一（三重県）
鈴木 くみ（兵庫県）
中谷 邦子（兵庫県）
髙木 繁嘉（兵庫県）
吉永 知英子（三重県）
尾花 幸雄（兵庫県）
末松 和佳子（兵庫県）
居場 英則（奈良県）

企業部門

滝川学習塾 大平台校（静岡県）
株式会社ホテルサンバレー（静岡県）
ＮＰＯ法人ＥＰＯ（静岡県）

花のまちづくり努力賞

【若葉賞】

団体部門　フラワーロード中道（秋田県）
団体部門　瀬野川さくら芝さくら管理推進委員会（広島県）
個人部門　村田 のり子（石川県）
企業部門　篠原医院（静岡県）

【四葉賞】

団体部門　まごころでい藤枝南（静岡県）

審査講評

コンクール審査委員長　輿 水　肇

今年はこのコンクールに全国から1,851件もの応募がありました。
応募くださった皆さんには感謝申し上げます。
また、各賞を受賞者された方々には、心よりおめでとうございます。
私は今年から審査委員長を務めることになりました。どうぞよろしくお願いします。
審査を終え、今年も素晴らしい花のまちづくりの取り組みに出会えたことをとてもうれしく思っています。

花のまちづくりの活動内容と成果を評価

審査においては、活動場所で花が健全に育ちきれいに咲いていることを前提に、地域等で生じた課題や問題を、花や緑を介した活動を通じて乗り越えながらまちづくりに影響し、その成果が美しいまち並みの形成や地域文化の継承、自然の保全、コミュニティの発展等に見られたかどうかを評価しています。分かりやすく言い換えれば、花壇の出来栄えではなく、活動の内容とその成果を審査するコンクールということです。審査項目に「快適な生活環境づくり」や「活動状況」、「地域の活性化」があるのはそのためです。

各地で取り組まれている花のまちづくりは、活動している主体や規模、内容など千差万別です。従って現地審査で受審地の活動を見終えた後の第二次審査委員会では、各審査委員からは様々な評価や意見が出され、点数にすると拮抗することも多く、議論が伯仲する中で賞を決めるのは楽なことではありませんが、今年も４つの大賞受賞者を決めることができました。大賞にならなかった方々も、次回はより上の賞を目指して頑張ってください。期待しています。

大賞受賞者の特長

新地町立駒ケ嶺小学校は第22回に優秀賞を受賞していますが、この時よりもPTAや地域が学校と一体となって、学校の周辺に花壇を増やし活動を拡大させています。その結果、児童はより明るく活発になり、活動を向上させようとする意欲が見られます。小学校における花のまちづくりは、児童の心に地域への愛着や責任感、やさしさなどを醸成し、児童の人格形成にも好影響が見られます。それにも増して大人と一緒に活動することで、自分も地域の一員であるという自覚を芽生えさせます。このことは新たな花の社会性の発見にもなりました。

山崎久夫さんの花のまちづくりは個人の活動レベルを超えています。行政の事業としても容易にできるものではないレベルです。日本人は地域の自然の風景を縮めて日本庭園を造るような能力は高いといわれますが、山崎さんの風景づくり（春の四重奏）はこれとは逆で、残雪の山並みを背景に、花を使って大面積で素晴らしい風景を地域の方たちと一緒になって創り出しました。富山県らしい地域性に富んだチューリップ畑の風景に審査員一同が感動しました。

藤枝市のふじえだ花回廊は、60年前に結成された藤枝市花の会の市民活動が礎になっています。ふじえだ花回廊事業の優れている点は、市役所内の各部署で実施している関連事業を広域連携課が全て掌握し、横断的に関連付けられていることです。これによりそれぞれの事業主旨が市民に伝わりやすくなり、見事に市民活動として展開されています。

すみよいカルチャータウンをつくる会コミュニティガーデンふるるは、応募回数が今回で7回目です。7度目のチャレンジで大賞を受賞されました。何もなかった遊休地から兵庫県の協力を得て活動を始め、12年間にわたり粘り強くひとつひとつの活動を積み上げてこられた結果といえます。活動の仕組みと仕掛けが優れていて、誰もが取り組める花をテーマにして、幅広い年齢層の参加が得られるように活動が工夫されています。コミュニティガーデンの優れた事例といえ、今後全国的にも注目されることでしょう。

花のまちづくりの活動が成熟してきたこともあって、新たに評価すべき活動内容が見られるようになりました。そろそろ審査基準を見直さなくてはならない時期にきているようです。審査委員会においても課題を乗り越えながら、これからも審査を進めていきますので、よろしくお願いします。

優秀事例発表

“ふるさとの花咲かおじさんが創出した「春の四重奏」”…… P.6

花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞
個人部門　山崎 久夫（富山県朝日町）

“復興とその先を見据えた花飾り”…… P.8

花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞
団体部門　新地町立駒ケ嶺小学校（福島県新地町）

“地域住民の憩いの場として愛されるコミュニティガーデン”…… P.10

花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞
団体部門　すみよいカルチャータウンをつくる会
　　コミュニティガーデンふるる（兵庫県三田市）

“いつも、どこでも、どんなときも、花でつながる・ふじえだ花回廊”…… P.12

花のまちづくり大賞 国土交通大臣賞
市町村部門　藤枝市（静岡県藤枝市）

個人部門　山崎 久夫（富山県朝日町）

春の四重奏－チューリップ、菜の花、さくら、白銀の朝日岳－の創出とまちづくり

～ 多くの人に喜んでもらいたい、ふるさとの彩を ～

春の四重奏の創出、活動のきっかけ

私のふるさと富山県朝日町には、富山さくらの名所に選定され、今では全国からお花見のお客さんが急増している「舟川べり」のさくら並木があります。

元はと言えば、昭和36年にさくらが植樹されてから、残雪の白い朝日・白馬連峰と舟川堤防沿いのさくらの二重奏により、風景カメラマンには知る人ぞ知る名所となっていたところです。

私は地元の舟川新地区で、田んぼで米やチューリップ球根などを栽培している農家です。2003（平成15）年ごろ、町内の農家さんから「後継者がいないので舟川近くの田んぼを使わないか」と申し入れがありました。チューリップは連作障害(土壌病害)が起こるため、毎年、栽培場所を替える必要があります。田んぼ探しに苦労していた私は、喜んで申し出を受け、農地を2ha借り、余った土地に栽

培が簡単な菜の花も植えました。現在では舟川べりに7ha借りています。

数年後、散りかけの桜に、チューリップ、菜の花の開花が間に合い、奇跡の四重奏が現れました。たまたま偶然に目の前に広がった“春の四重奏～チューリップ、菜の花、さくら、白銀の朝日岳”は、近所の評判になり、写真愛好家の被写体となるばかりか、マスコミでも取り上げられ、今では地域を彩る宝物になっています。

活動で努力してきたこと

●春の四重奏の共演

偶然出現した春の四重奏を目にしてから、なにより私は桜とチューリップ、菜の花を咲き揃わせることに努力してきました。①桜と同時期に咲くチューリップ品種（早生）を選び。②桜と共演するように桜並木沿いになるべく集団化して作付する。③開花時期の長い菜の花を咲き揃わせるなどです。

チューリップの球根を大きくして販売するには、花を早く摘み取らないといけませんが、四重奏を楽しみにして来られる方々のため、できる限り花摘みを行わず、景観保持するようにしています。また、近隣の農家の皆さんともども日中はトラクターなどの農作業は行なわないようにし、人の少ない

雨の日に行うなど、おもてなしの心配りを込めてきました。

摘み取ったチューリップの花びらは、桜並木の根元に肥料となるように毎年まいて、自然（有機物）の循環を促しています。きれいな桜が毎年咲いてくれるのも、花びらのおかげと思っています。

●人とのつながり

舟川べりのさくらは、最近では約３万人の観光客で賑わうまでになっています。桜の世話ひとつにしても、ひとりではできません。地域の舟川新桜並木保存会の皆さんらと、舟川べり両岸で1.2km、280本の桜並木（ソメイヨシノ）の下草刈り、枝の剪定、病害虫防除など協力して管理しています。

平成 10 年から 24 年まで花と緑の銀行の地方銀行頭取(花と緑の指導者)として、平成15 年からは「とやまさくら守」(富山県内のさくらの名所を維持し、さくらの良さを普及啓発するために、現在75名の方が登録)として、地域の保育所や小学校、公共施設での花の管理指導、桜の世話に、地域の皆さんと一緒

になって勉強し取り組んできました。

また、チューリップの花摘みには、近隣の子供たちに花摘み隊として、毎年手伝ってもらい、自然に触れ合い花づくりの楽しさを体験してもらっています。

活動の成果、今後のおもい

舟川新桜並木保存会はもとより、地域や町役場の皆さんの協力を得ながら、長い時間と地道な努力を積み重ねた結果「春の四重奏」がだんだんと周知されてきて、大変うれしく思っています。

春、満開に咲き誇る桜のトンネルを見ると、冬の寒い時期からの作業の大変さが一度に吹き飛んでしまいます。また、この四重奏を見に来られる方々の表情に「やってきてよかった」という気持ちがこみ上げてきます。そして、何よりも長年にわたるこの活動が、「町全体で守り続けていこう」という機運が強く感じられるようになってきたことをとても喜んでいます。

春の四重奏だけでなく、一年中、多くの人にふるさとの彩りを喜んでもらおうと、2016(平成 28) 年からヒガンバナの植栽にも取り組み出しました。町長はじめ、町内会、地区自治振興会、町観光協会、ロータリークラブの皆さんら数十名で桜並木の幅5mの土手に穴を掘り、球根を手植えしています。3年かけて長さ約700mのヒガンバナが咲く紅い彩を目指しています。

また、2006(平成18) 年から、田んぼアートにも取り組んでいます。田んぼアートを通してもたくさんの人と出会い、交流の輪を広げ、皆さんに楽しみ喜んでもらっています。

地元、朝日町には最盛期に約30戸のチューリップ球根農家がありましたが、今では我が家の1戸のみになっています。球根栽培、米作り、地域農業の行方とそれぞれ難しい話がたくさんありますが、だからこそこれからも春の四重奏の創出を続け、町内外の皆さんに喜んでもらい、地域が元気になってもらいたいと願っています。子供たちが育ち、町を離れても、町のすばらしい四重奏の彩が全国で紹介されて、ふるさとを思い出してもらえればと思っています。

いずれ、「そこなち(そこの家)の親父、かわっとったな。好きなことやっとったな。」と言われれば本望です。

団体部門 新地町立駒ケ嶺小学校（福島県新地町）

学校から元気発信!! 震災を乗り越えて　　**新地町立駒ケ嶺小学校長　髙橋 澄子**

活動のきっかけと活動概要

1976年（昭和51年）に町で唯一「緑の少年団」が結成され、少年団活動の一環として緑化活動に取り組むようになったことがきっかけです。当時「花と緑と交通安全」をスローガンに掲げ、中庭にある円形花壇と学級花壇、そして通学路沿いの花壇を「フラワーベルト」と名付けて花いっぱい運動を展開していきました。

その後、現在の場所に校舎が新築され、2001（平成13）年に移転してからは近代的な建物の校舎と花との調和を模索する中、プランターを中心とした花壇管理を経て、現在では土を耕した直植えの花壇も増やしつつ、緑化活動や花いっぱいコンクールへの参加を本校の伝統・特色ある取り組みの一つとして引き継ぎ、展開しています。

活動で努力している点

新感覚の建築様式による建造物に囲まれた中庭・通路にはプランターを配置し、花の開花状況によっては配置場所を変えるなどして美しい環境を保つよう努力しています。また、児童や来客が一番目にする場所に花壇を手作りして四季折々の花で飾り、来客する方々を花や緑でお迎え出来る様に素敵な空間を作り上げています。

通学路沿いの花壇は、地域住民の方々にも花を愛でていただけるよう植栽の際に工夫を凝らすようにしています。今年度はお花で幾何学模様や校章、文字を形作るよう挑戦しました。

平成23年の東日本大震災後、放射線量の心配があり、植栽活動に不安を抱く声があったそうですが、震災当時の先生方、保護者の方々の尽力により、緑化環境を充実させることが学校への元気、地域の復興につながるとの思いから積極的な活動へと進展しています。

前回受賞時との違い

2012（平成24）年に本校は、当コンクールにおいて花のまちづくり優秀賞を受賞しました。東日本大震災の影響によって、子どもたちの活動が制限される中、そのような環境だからこそ、花や緑に関わる必要性を感じ、保護者や地域の方々と一緒になって花壇整備に取り組んだことを評価していただきました。その取り組みは震災後６年半過ぎた現在も変わることなく継続しています。さらに平成26年度からは新地町の全小中学校で食育の研究に取り組み、地産地消の良さを学びつつ震災前に行っていた野菜の栽培や稲作りも再開し、花いっぱいの活動とともに土の感触を楽しんでいます。また、本校の学区には震災後、双葉郡から移り住んできた住民の方々が多くいます。そのため本校での花いっぱい運動の取り組みを知っていただく意味でも子どもたちが育てた鉢植えの花を新しく越してきた方々や小学生のいないお家の方々にプレゼントする活動も始めました。学校だけでなく学校周辺もお花でいっぱいになり、花苗を通じて地域全体が明るく住みやすい環境になることを願っています。

活動の成果

東日本大震災では、新地町においても119名の方々が犠牲になっています。その被災地にある学校ですが、子どもたちは花いっぱいの環境で大らかにのびのびと学校生活を送ることができています。植栽活動を通して花を観賞するだけでなく、花を育て、花に触れ合うことにより、自然への感謝や人への思いやりの心までもが養われていると思います。

また、来校者や地域の方々から花いっぱいの環境に対して称賛していただいています。特に地域の方々にはいつも気にかけていただき、除草作業が追いつかない時など、「草刈りは人手が多くあった方がいいんだよ」とPTA の奉仕作業以外でもすぐに集まって草刈りをしてくださるなど、花いっぱいの環境は地域の方々にとっても大切にしていただいている場所であり、癒しの場所、繋がりを感じる場所となっていることを強く感じます。

今後の展開

緑の少年団の活動として取り組み始めた緑化活動ですが、花でいっぱいの学校は子どもたちにとって自慢の学校です。また、その環境を維持するために、子どもたちは朝から水やりや花がら摘みを行い、児童会活動の際には除草作業も積極的に行っています。現在は被災地支援として年に 2 回、セブンイレブン財団より寄贈していただいている花の苗とハウスで種から育てた苗を使って花壇を作っていますが、今後は宿根草と一年草のコラボレーションを考えてさらに良い花壇づくりを手がけていきたいと考えています。

また、花の美しさや癒しを知っている子どもたちだからこそ、自ら育てた花を学校外に広めていく（鉢植えのプレゼント）活動を通して、学校の花いっぱい運動から地区の花いっぱい運動へ、そして新地町全体の運動へと繋げていくことができると思います。さらに花と緑の活動が被災地復興の一助となることを信じ、一歩一歩地道な活動を続けていきます。

団体部門 すみよいカルチャータウンをつくる会 コミュニティガーデンふるる（兵庫県三田市）

ホッとできる「場」をクールに楽しむコミュニティガーデン

神野妙子

活動のきっかけ

2004（平成16）年３月三田学園地区通称《カルチャータウン》の開発主体である兵庫県企業庁が同地区の「魅力づくり」の一環として「カルチャータウンクラブ活動事業」の推進を提唱しました。

地域住民が主体になり文化・スポーツなどのクラブ活動に対して、初期の環境整備費および運営費の補助などを行うというものでした。

その頃、地区センターが未整備で、ひとの交流する《場》がなく知り合う手段のない状態を淋しく感じていました。

まちとは、魅力とはどういったものを言うのだろうと疑問を持ち、当時の淡路景観園芸学校で１年学んだ後、花とみどりによるまちづくりの実践の機会を模索していた時でした。

そこでこの呼びかけにいち早く手を挙げ、人を集められる仕掛けをつくりたいとコミュニティガーデンづくりを呼びかけました。

1年間の話し合いの結果2005（平成17）年1月、「すみよいカルチャータウンをつくる会」を立ち上げ、その中のクラブの1つとして“ふるるガーデン”づくりを開始しました。

活動する場所に人を呼ぶには歩いて来られる距離にある地区センター予定地でなくてはならないと県を説得しました。公の土地だけに一部の住民の反対もありましたが説明会も開き了承をいただくことができました。

活動概要と成果

このガーデンは単なる眺めるための庭という場所にとどめることなくコミュニティガーデンの名のとおり、子供や関西学院大学の学生、子育て中のママさん、シニアまでが自ら一緒に楽しむことのできるプラットホームとしての《ホッとする居場所づくり》を目指しています。

花と緑が創りだす空間を、快く感じられる環境を多くの住民が楽しんで欲しい。車椅子やベビーカーが入りやすいようにと、3年3期に分けて夏休みを利用して小学生も参加して園路を整備しました。

このような大型の事業を行うときは、市や企業の助成金を申請し完成させることができました。模擬ではなく実際に使うための道を

つくる経験を子供たちは真剣にとりくみ、親御さんも驚いていたほどです。
園を吹き抜ける風の匂いや霧にぬれたクモの巣、昆虫・蛙・シジュウガラの子育てなどが観察できるように、ガーデンでは農薬は使わないようにしています。

時々メッセージボックスに中学生が書いたと思われる手帳をちぎった手紙や、引っ越してこられた方の感謝の気持ちが書かれた手紙を見つけた時、コミュニティガーデンとしての目的をひとつ果たせていると部員は小さな喜びを積み重ねています。

１年を通して、お花見・鯉のぼりたて・オープンガーデン・七夕・芋煮会(お月見)・クリスマスキャンドル飾りといった、昔から続いてきた行事を継承するプログラムを催したり、子育てグループによる芝生の上で水遊びするなど、身近な土地での子供たちの経験が、原風景になってくれることを望んでいます。作業活動は毎週木曜日ですが単に作業のためだけではなくそのあとのティータイムは部員の安否を確かめる役割もあり、お互いの健康相談・生活情報交換と緑陰での穏やかで有意義な《場》となっています。

今後の展開

今回の受賞により13年の活動成果に自信を持つことができましたので活動をアピールできる機会を増やしていきます。地域にあるグループやシニア応援団体として、ボランティア活動を希望している人への説明会に積極的に参加し、新しいつながりを広げプログラムを増やし、シニアや子育て世代が楽しめるコミュニティガーデンづくりを進めていきたいと思っています。

活動のチャンスを頂いた県企業庁と公園みどり課の静かな見守りとご協力に感謝しております。

市町村部門　藤枝市（静岡県藤枝市）

いつも　どこでも　どんなときも　花でつながる
～“市民総ぐるみ”で取り組む 花のまちづくり「ふじえだ花回廊」の推進～

活動のきっかけと活動概要

市の名前に“藤”を冠する藤枝市は、気温が温暖で一年を通じて四季折々の花を楽しむことができます。400年以上の歴史を持ち、年間150万人近くが訪れる蓮華寺池公園をはじめ、花の名所が多数あります。また、各種団体、自治会・町内会など、長きにわたり、藤や桜などそれぞれの地域の花を地域住民自らが守り、育てる活動を積極的に行ってきました。

1957(昭和32)年9月、花いっぱいに迎えようと国体を契機に藤枝市花の会が設立し、1973(昭和48)年には藤を市の花に制定しました。以来、花いっぱい運動と日本一の藤の里づくりを推進してきました。

これらの“花”と活動する“人”を「地域の宝」

として、その魅力を市内外に発信することで、藤枝市に“住む人”と“訪れた人”が花を通して笑顔でつながるまちを目指し、2015(平成27)年3月、市の重点施策として「ふじえだ花回廊基本構想」を策定し、花のまちづくり「ふじえだ花回廊」を、“市民総ぐるみ”で推進しています。

いつも　どこでも　どんなときも　花でつながる

“市民総ぐるみ”による取組を実現するため、産学官で構成するふじえだ花回廊推進協議会を中心に、ふじえだ花回廊基本構想の4つの柱に沿った施策を戦略的に展開しています。

歴史・資源と花の持つ力を最大限に活用し、特徴ある多様な事業を全庁的に取り組むほか、大学と連携したロゴマークの作成、市民政策提案による事業化、市の玄関口である駅や市庁舎の彩りボランティアなど、市民のアイデアをまちづくりに反映するとともに、市民参画がしやすい仕掛けづくりを行っています。

ふじえだ花回廊基本構想 4つの柱

いつも	一年中花を楽しむことができるまちづくり
どこでも	市内どこでも花を楽しむことができる環境づくり
どんなときも	人生の様々な場面に、花が潤いを与えてくれる生活の提案
花でつながる	花によって人と人がつながり、ふじえだ花回廊を次世代につなげる

「みんなでつないで めざそう 花の世界一！」ギネス世界記録に挑戦

2017（平成29）年3月、ふじえだ花回廊のさらなる機運づくりと、多くの市民が花に触れ花に親しむ機会の創出を目的として、ツナグハナ（目標2,987m）を合言葉に「世界一長い花の列」に挑戦しました。市内27の全ての小中学校をはじめ、約240の市民団体や企業、自治会･町内会、商店街等の協力により、5,100プランター、約30,000鉢のパンジーやビオラなどを育てました。

約3㎞に渡りプランターを並べる作業は、平日の夕方、仕事帰りの市民ボランティア200人以上が集まり、実施しました。

多くの市民が見守る中、ウクライナ共和国の2,847.90mを超え、3,117.17mを記録し認定率5%といわれる難関のギネス世界記録を達成することができました。

なお､ギネス世界記録で使用したプランターは、事業所や商店街、学校、観光施設など、市内の各所で活用されています。

活動の成果

2003（平成15）年にスタートした「まち美化里親制度」などの活動に加え、ふじえだ花回廊サポーターズ事業費補助金制度の創設・周知により、これまで以上に地域における美化活動や花の植栽活動が活発化するなど、民間団体や企業の主体的な取組が拡大しています。

また、友好都市との交流や、異業種の団体や企業の間で連携した取組が見られるなど、花を通した交流が拡大しています。

さらに、間接的ではありますが、2016（平成28）年の犯罪発生率（1,000人当たり、人口10万人以上市区）は県内最小を示すなど、まちの安全・安心に寄与しています。

今後の展開

ギネス世界記録の挑戦は、多くの市民が花に関心を持つきっかけとなりました。その取組で得た成果を生かし、市民ひとりひとりが取り組むことができる施策や、子どもの頃から花に触れ合う機会の創出などを促進していきたいと考えています。

そして、藤枝といえば「花のまち」と市民が誇りに思い、次世代につながる持続性のある取組として定着させていけるよう“市民総ぐるみ”でふじえだ花回廊を推進します。

花のまちづくりスキルアップ（講演）

誰でもできる楽しいたねダンゴ、花と笑顔がいっぱいのまちづくり

小杉 波留夫

サカタのタネ㈱ 花統括部 ガーデンセンター園芸相談員
公益社団法人日本家庭園芸普及協会グリーンアドバイザー委員会副委員長

プロフィール… サカタのタネ（株）で44年間"花のたね"の仕事に従事し、タネに関する全ての仕事をされ、パンジープロジェクトやサンパチェンスプロジェクトなど市場開発のリーダーを歴任。現在はサカタのタネガーデンセンター横浜で、園芸相談と園芸ミニ講習会を担当。

また、2011年3月の東日本大震災後からは現地に入り、被災地を花と緑で応援する（公社）日本家庭園芸普及協会の花いっぱいキャンペーンでは委員長となり、東北地方の三陸沿岸地域を支援。その活動の中で生まれたたねダンゴという新しい種まきの手法と景観形成の技術を作り上げ、今では全国都市緑化フェアなど、日本全国で採用されている。現在は日本全国にたねダンゴ指導者を養成する事業を進めている。

1 生来の花好き、日本の国民性

江戸時代の末期に日本に訪れた、プラントハンター　ロバートホーチュンは、その千里眼で日本人が、生まれつきの花好きだと言う事に気が付きました。外国人が見た幕末の日本における庶民の園芸についてのお話です。

2 世界で第二位の園芸消費国である日本の姿を紹介します

世界で始めて完全八重咲きのペチュニア、同じく八重咲トルコ桔梗を開発した育種水準の話、そして、パンジーやビオラの一代交配種を開発したのも日本です。世界の中で光る園芸大国の日本の姿に迫ります。

3 人は何故、花を見ると笑顔になるのでしょうか？

アメリカの心理学者ナンシーエトコフ博士は、人が花を好きなのは生存本能に由来すると言います。博士の仮説に自分の見解を混ぜて花を見て笑顔を見せる人々の行動を考察します。

4 東日本大震災で改めて知った、花と緑への人々の思い

2011 年3月11日に起きた大震災被害は甚大で、規模は未曾有と言うほかありませんでした。日本家庭園芸普及協会は、直後から被災地に入り、被災地と被災された方々を花と緑を通じ元気付けてきました。

本日の主題である、たねダンゴは、被災地を支援する活動の中で考えられ実践されてきました。そして、その経験を通じ肌で感じた、人々の花や緑に対する思いを語ります。

5 新しい種まきの手法～たねダンゴについて

たねダンゴは、ケト土と赤玉土を混ぜてよく練って作った泥ダンゴに、肥料と土壌改良剤を加え、ダンゴの表面に花のたね等を付けて作ります。

そして、花壇やプランター等に花を咲かせる緑化手法として、被災地のみならず全国で注目され実践されるようになりました。

6 たねダンゴが作る風景

たねダンゴが作る景観はどのようなものなのでしょうか、 それは、地域にどのような貢献をしてきたのでしょうか、数々の事例を紹介いたします。

たねダンゴだからできる事、お勧めする理由

1 ダンゴに重さがあるので、 風で飛んだり雨で流れにくく、 傾斜地での花壇作りもできます。
2 たねダンゴは、 球根を植える感覚で手軽に種まきができます。
3 ダンゴに保水性、 保肥性があり植物の初期成育を助けます。
4 たねダンゴは直播効果があり、 根が良く伸びしっかりと生育していきます。
5 一箇所から数株の芽が出るため、 雑草の芽との見分けが付きやすく、 除草作業の助けになります。花束のように花が育ちます。
6 たねダンゴを作る事自体が楽しく、作業をしながら交流をする事ができます。子供からお年寄りまで、 誰でも参加できるイベントになります。 幼稚園、 保育園、 学校、 地域のイベント、 地域共緑化などに活用できます。

7 たねダンゴの作り方

① ケト土7、赤玉土3の割合で土を混ぜ、二価鉄イオン水で加水して適度な硬さに練ります。
② テニスボール程度の大きさに取り分け、親ダンゴ（たねダンゴ10個分）にします。
③ 親ダンゴを10個程度に分割して小さなキンカン程度の大きさの泥ダンゴを作ります。
④ 泥ダンゴの中心に緩効性肥料とケイ酸塩白土を入れ丸めます。
⑤ 次に季節ごとに最適化されたたねダンゴミックス種子を20粒～30粒程度付けます。
⑥ そして表面についた種を再び丸め、たねを圧着します。
最後にたねダンゴの表面にケイ酸塩白土をつけ、たねダンゴの完成です。

8 たねダンゴの植え付けとその後の管理

9 たねダンゴを作ってからの管理方法をお話します

10 最後に花いっぱいの町づくりがどのような意味を持っているのか、考察します

全国花のまちづくり中之条大会　開催案内

全国花のまちづくり地方大会とは

花のまちづくりコンクール推進協議会では、
花のまちづくり運動を全国へ普及・啓発することを目的に、
毎年、地方公共団体との共催による
全国花のまちづくり地方大会を実施しています。

全国花のまちづくり中之条大会の概要

平成30年7月21日（土）

アトラクション
事例発表（花のまちづくりの取り組みについて）
パネルディスカッション
コーディネーター：福田具可氏
パネリスト：塚本こなみ氏、吉谷桂子氏、河合伸志氏
会場：中之条町バイテック文化ホール

平成30年7月22日（日）

現地見学会　花の駅美野原
花の駅花楽の里
チャツボミゴケ公園
応徳温泉（宿泊）

平成30年7月23日（月）

現地見学会　野反湖（キスゲ）

〒377-0433 群馬県吾妻郡中之条町大字折田2411（花の駅美野原）
全国花のまちづくり中之条実行委員会事務局
TEL 0279-75-7111　FAX 0279-75-7113
E-mail：h-murayama@town.nakanojo.gunma.jp

MEMO

公益財団法人 日本花の会

〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル
TEL 03-3584-6531　FAX 03-3584-7695
E-mail:hananokai@komatsu.co.jp
http://www.hananokai.or.jp